



## つなぐちゃんベクトル

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会社内誌 臨時増刊 397号 2011.5.30 発行 社会政策研究所

---

全国から週末に届いた新しい取り組みやユニークな実践を集めてみました。【kobi】

### 職業訓練：障害者の就職促進、介護ヘルパー養成始まるー新潟、県内初 /新潟

毎日新聞 2011年5月28日

障害者が介護ヘルパーの資格取得を目指す職業訓練が27日、社会福祉法人「愛宕福祉会」（新潟市北区松潟）で始まった。障害者の就労環境が依然厳しい中、資格を持つことで介護分野での就職を促進するのが狙いで、県内では初めて。「障害があっても働ける職域を広げたい」と関係者は期待を込める。【小林多美子】

この日始まったコースは、20～50代の男女8人が受講する。身体障害が3人、知的障害4人、精神障害1人。開講式とオリエンテーションの後、さっそく授業が始まった。8月23日までの3カ月間で、介護ヘルパー2級の資格取得を目指す。

同市西区の片岡多津子さん（55）は右足に先天性の障害がある。パートで事務職をしていた。就職時、定年まで働けると言われていたにもかかわらず、今年3月にリストラされた。片岡さんは「障害があると、人員削減の対象になりやすいのだろうか」と悩んだ。今回、介護ヘルパーの講習コースができると聞き、応募した。「やりがいと張り合いが持てる仕事だろうと思って。楽しみにしてきました」と意気込む。

新潟労働局によると、障害者の就職率は昨年度で52.2%。01年度の38.8%と比べ増加しているが、希望した人の半数しか就職できていない状況だ。障害者を対象にした職業訓練は、介護ヘルパー以外ではパソコンや部品組み立て、総合実務など県内で11コースが実施されているが、より人材の求められている介護分野に職域が拡大することで、就労の機会を増やそうと始まった。

県から講習を受託した「愛宕福祉会」によると、通常は130時間の講習時間を300時間に拡大。講習内容を反復する追加指導の時間などを設け、サポート体制を強化した。同会研修室長の轡田（くつわだ）栄理子さん（45）は「資格をとると就職の強みになるが、障害があると資格を取る場も少ない。講習を就職までつなげたい」と願いを込めた。

### 障害者の店 よってこ

朝日新聞 2011年5月29日 佐賀

500円の日替わりランチを持つ西田京子代表（右）と従業員の男性＝佐賀市唐人1丁目

佐賀市の中心市街地活性化のため、中央大通り沿いにある「よってこ十間堀（じゅっけんぼり）」が4月から始めたランチが、「安くて栄養がある」と人気を集めている。今月中旬からはディナーも始めた。保育士が常駐し、子どもの一時預かりのサービスも好評だ。



「よってこ十間堀」は、NPO法人「たすけあい佐賀」（西田京子代表）の運営で、2009年11月にオープンした。スタッフに知的障害者を積極的に雇っている。もともとは、無料で飲み物を出す街なかの休憩所だった。

その後、ランチを出せないかと考え、知的障害者雇用を掲げて国の福祉助成金を3年間受ける予定だった。しかし、国の「事業仕分け」で、約半年で打ち切りに。県の支援事業「地域共生ステーション事業」に応募して助成を受けたものの「焼け石に水」。イベントなどで知名度を上げるべく奮闘している。

店の売りは「500円ランチ」。魚か肉の2種類から選べる。野菜たっぷりの小鉢が付き、ご飯のおかわりも自由とあって、会社員や女性に人気だ。こんにゃくや豆腐が入ったヘルシーなカレー（500円）もある。ただ単価が低く、「給与を払えば、黒字にはならない」（西田代表）。

そこで今月からは夜にも営業し、ピザやスパゲティ、オードブルを出して、ビールやワインも楽しめるようにした。800円くらいで「よってこ夜定食」が出せないか検討しているという。

一方、西田代表は3人の子育てをするなかで、街なかでの託児の必要性を感じてきた。そこで、保育士1人が常駐し、2時間まで500円の低料金で、一時託児も始めた。食事やおやつは出ないが、遊具があり、子どもの年齢は問わない。

西田代表は「多くの人に来店してもらい、障害者の雇用を支えて欲しい」と意気込む。午前10時～午後10時。日曜定休。問い合わせは同店（0952・97・9075）へ。（伊豆丸展代）

## 東北の障害者製作物品を関西で販売

朝日新聞 2011年5月28日

福島と岩手の障害者施設から届いた物品を仕分けする作業所のスタッフたち＝京都府精華町の相楽作業所



東日本大震災の被災地で障害者支援を続けてきた関西の福祉団体が、被災地の施設で障害者が作った物品の販売を関西で始める。消費が十分に戻らない被災地では、思うように売れないため、販売支援で元気づけようと企画された。

震災後、奈良市の社会福祉法人「わたぼうしの会」、京都府精華町の「相楽福祉会」、京都市の「西陣会」、大阪府東大阪市の「創思苑」など障害者施設を運営する計12法人が、「東日本大震災関西障害者応援連絡会」を結成。被災地の施設に食料を送ったり、職員ら50人を交代で派遣したりしてきた。

施設の多くは日常に戻りつつあるが、障害者が作り、施設の運営費や障害者の賃金に充ててきた物品の売り上げは落ち込んだまま。物品が売れるかどうかは、障害者の励みや生きがいにも直結するため、販売に協力することにした。

岩手県と福島県の施設からは25日、手作りの織物や、ストラップなどの雑貨、ジャムやクッキーなど段ボールで約40箱分が同連絡会に到着。28日には、東大阪市の障害者施設「クリエイティブハウスパンジー」（072・963・8818）が開く催しで販売される。6月5日に精華町である「町ふれあいまつり」でも出品される。

被災地の18施設から物品を集めて関西に送った福島県授産事業振興会の経営相談員、立島孝さん（63）は「イベントの中止が相次ぎ、風評被害も深刻な中で販売していただ

くのはありがたい。感激です」。企画の中心となった相楽福祉会の理事長、廣瀬明彦さん（58）は「遠隔地でもできることはある」と話す。

問い合わせは相楽福祉会（0774・93・3277）へ。

### 絵画「地球」：エコテーマに 障害者グループ、半年かけて制作 姫路で除幕式 /兵庫

朝日新聞 2011年5月29日 兵庫

エコをテーマに障害者の美術愛好家グループ「あいアイ」（埼玉県川越市）が描いた絵画「地球」（縦100センチ、横80センチ）の除幕式が28日、姫路市延末のロックシティ姫路ショッピングセンターであった。

大きな地球を中心に、鳥や飛行機、虹などが描かれている。メンバー36人が油絵の具とフェルトペンを駆使し、半年近くかけて共同制作した。6月6日から2階専門店スペースで午前10時～午後9時に常設展示される。

「あいアイ」は知的障害者ら会員約150人が、自立の一助に絵画制作などの美術活動に取り組むNPO法人。昨年開かれた上海万博にも出展しており、優れた創造性が注目されている。栗田千恵子理事長（68）は「自然を大切にする気持ちを見る人も一緒に感じてほしい」と話している。【浜本年弘】

### 美馬出身CO-KEYさん 地元障害者施設でサプライズライブ

徳島新聞 2011年5月29日

CO-KEYさん（右から2人目）らによるライブで盛り上がる施設利用者＝美馬市脇町の榎ヶ丘育成園

美馬市出身のヒップホップ歌手CO-KEY（コーキ）さんらによるライブが28日、美馬市脇町拝原の知的障害者更生施設・榎ヶ丘育成園であった。

「サプライズライブ」と銘打ち、CO-KEYさんと歌手仲間の女性ボーカリスト・Heartbeat（ハービー）さんが登場、計6曲を披露した。阿波踊りのぞめきのリズムを基調とした「阿波バウンス」が演奏されると、施設利用者は「ヤットサー、ヤットサー」と一緒になって踊った。

東日本大震災の発生以降、音楽の力で社会貢献しようと福祉施設や被災地で無償のライブを開催しているというCO-KEYさんが提案して開かれた。



### 障害者とお年寄りが農業、子育て支援 江別「風の音」オープン

北海道新聞 2011年5月29日

障害者、お年寄り、子どもが気軽に交流できる「共生型施設 風の音」

【江別】障害者とお年寄り、地域の子どもたちが交流できる共生型施設「風の音（ね）」（西野幌92）が今月中旬オープンした。札幌市のNPO法人スマイルリンク（田頭美奈子理事長）の運営。障害者を職員として雇い、隣接する農地でお年寄りと一緒に農作業するほか、冬場は託児所も開設、地域の子育ての手助けをする。



（竹内桂佑）

風の音は木造平屋建て約190平方メートル。厚生労働省の交付金を活用、約3千万円かけ建設した。常勤職員は5人いる。

計画では夏場は、障害者2人と農業経験があるお年寄りを雇い、隣接する約1・5ヘクタールの農地で野菜を栽培。収穫物は市内野菜直売所で販売する。障害者2人の雇用は6月以降の見通し。お年寄りは非常勤の有償ボランティアの形態を考えているという。さらに絵本や将棋などを備えた「多目的ホール」も併設し、地域の子どもやお年寄りが気軽に訪れ、交流できるようにする。

一方、冬場は障害者とお年寄りは、収穫した野菜を使ったジャムなどの加工品づくりに当たる予定。

託児所開設は12月～3月。農家の子どもたちの保育を担う野幌季節保育所は4月～11月の農繁期のみで、兼業農家から冬期間の営業を望む声に応えた。同保育所を運営する市社会福祉協議会は「保育の受け皿は不足しており、本当にありがたい」と話す。

市福祉課によると、障害者向け共生型施設は市内2件目だか、農作業や農産品加工をするケースは珍しい。

田頭理事長は、将来は多目的ホールで英会話やヨガなどの教室も開きたいといい「お年寄りと子ども、障害者と一緒に、大家族のような温かい施設にしたい」と話している。

## 「希望、やっと見えた」 はまなす学園、近く仮設住宅建設 岩手・山田町

産経新聞 2011年5月27日

集団での避難生活を送る「はまなす学園」。グループホーム型応急住宅建設が決まり、職員らも安堵の表情を浮かべる＝25日午後1時ごろ、岩手県山田町（渡辺陽子撮影）



東日本大震災にともなう津波で施設が全壊し、入所者らが避難生活を送る岩手県山田町の知的障害者更生施設「はまなす学園」のグループホーム型仮設住宅の建設が決まった。近く着工し、7月中に完成する予定。職員らは「復興への一歩。やっと希望が見えた」と安堵（あんど）の表情を

見せている。（渡辺陽子、写真も）

はまなす学園は、山田湾を望む海辺に立地。専門家のケアを受けながら障害者らがともに生活できる施設。震災の津波で施設が流され、入所者、職員らが、施設ごと廃業したホテルで避難生活を送っている。精神に障害を持つ約40人が入居、職員24人が働いていた。

3月11日は同園の入浴日だった。強い揺れに津波を直感した職員が、入浴中の入所者らを着の身着のままに車に乗せ、裏山の高台へ。迅速な避難誘導で奇跡的に全員が無事だったものの、津波で施設は全壊。震災以降、大所帯での避難生活を余儀なくされていた。

被災から1カ月身を寄せた県立青少年の家では、ワンフロアに50人がすし詰め状態。電気も水も、足を伸ばす余裕すらない状態が続いた。その1カ月後の4月11日には、同施設を小学校の授業場所に譲るため、学園と同じ法人の所有する廃ホテルに移動。今は板で仕切ったスペースにベッドを並べて寝場所を確保し、集団生活を送っている。電気は4月中旬には復旧したものの、仮設住宅建設のために業者の手が回らず、依然通水のめどは立たない状況だ。長引く避難生活と仕事のストレスからか、職員1人がくも膜下出血で入院し、入居者1人が急性心不全で亡くなった。入居者同士のけんかや異常行動も目立つようになるなど、疲労もピークに達していたという。

仮設住宅は同町豊間根地区に建設。1部屋2人で、20人が共同生活を送れる施設2棟に同園の40人が入所する。4月に県が示した住宅案では、1部屋1人、10人用の施設を4棟建設する予定で候補地を探していたが、十分な広さの用地が見つからず。同園から

の「1日も早く」との要望や、少ない人数で施設の管理に当たる同園職員の負担軽減も考慮し、再設計した。

同園職員の坂本芳志枝さん（48）は「仮とはいえ、入所者もこれまで通りの落ち着いた生活を取り戻せるかな」と安堵の表情。運営する社会福祉法人「親和会」の山崎幸男理事長は、「まずは復旧に向けた一歩。今後は福祉の復興が町の復興につながると信じ、努力していきたい」と話していた。

県内では、同園を含む障害者、高齢者の入所施設100施設以上が全、半壊や一部損壊するなどし、入所者240人以上が避難生活を余儀なくされている。宮城県では約40施設で約900人。福島県では主に原発事故の影響で、福島原発から半径20～30キロ圏内の避難区域にある約50施設以上の約2千人が県内外に避難している。慣れない環境で体調を崩す入所者も多く、各県で仮設住宅などの対応を急いでいる。

### 節電：「県立校は冷房止めよ」 知事指示に愛知県教委困惑

毎日新聞 2011年5月30日

夏場の節電を陣頭指揮する大村秀章・愛知県知事が県立学校での冷房の停止を指示したことに対し、県教委が困惑している。県立高校に設置されたエアコンのほとんどは、公費ではなくPTAの寄付金などで設置され、電気代もPTAなどが負担しているのが実態。「知事の気持ちは分かるが、強権発動は難しい」（幹部）というわけだ。

大村知事は、中部電力が浜岡原発の全面停止によって電力需要がピークになる時間帯の節電を呼び掛けたのを受けて対策を指示。24日の部長会議で「こんなに細かいことまで、という部分も含めて（対策を）積み上げたい」と述べた。その際、「照明がなくてもノートは取れる、と思わんわけでもない」と自らの学生時代をふり返り、「学校は（冷房などを）全部切ったれ」とはっぱをかけた。

だが、実際はそう簡単ではない。県教委によると、県立高149校のうち、県の支出で教室に冷房が設置されているのは2校のみ。90校では県の財源不足にしぶれを切らし、各校のPTAが寄付金を集めて07年から順次冷房を設置している。

県が冷房を設置した2校は、騒音や排ガスで窓が事実上開けられない。特別支援学校にも冷房があるが、体温調節ができない生徒もおり、いずれも冷房の停止は難しいという。

県教委の幹部の一人は「こちらはあくまで各校ごとに協力をお願いする立場。知事は現場の実態がまだお分かりになっていないのかもしれない」と話す。【三木幸治】

たまには太陽の子・手をつなぐ、たまにはつなぐちゃんベクトル、たまにブログたまにはチェック



大阪市天王寺区生玉前町 5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行